

34 おお い じょう あと おうじょう くろいわじょう 大井城跡 (王城・黒岩城)



指 定 県 史 跡 昭和46年 5 月27日
所在地 岩 村 田
所有者 個 人 34 人



鎌倉・室町の両時代を通じ、佐久郡東部に威をふるった大井氏の宗家^{そうけ}、後に支族が居城としたところで、岩村田の東北台地上にあり、自然の地形を利用した平地城郭である。

台地の東には険しい断崖の下を湯川が北から南に迂回して流れ、西は浅間山から流れ出た井水跡を拡げたとされる空濠が南北に通じている。

城郭は東西に横切る堀切りによって、南から黒岩城・王城^{いせならび}・石並城に分断されているが、三城あわせて大井城、または岩村田館とよばれている。

大井氏は鎌倉時代初期から大井荘の地頭職として栄え、特に室町時代の中ごろ、安養寺(安原)にかくまった永寿王丸が、宝徳元年(1449)に関東管領(足利成氏・古河公方)となるなどのこともあって、全盛を誇ったが、文明11年(1479)隣荘の伴野氏に破られ、さらに同16年(1484)村上氏に攻められて、城郭は神社・仏閣・民家とともに焼失し、大井氏の嫡流^{ちやくりゅう}(総本家の家筋)は滅亡した。

城はその後支族が再興し、天文20年(1551)武田信玄が上州や北信濃攻めに利用したが、武田氏滅亡のあと天正10年(1582)11月、徳川の将依田信蕃^{のぶしげ}らに攻略されて後は廃城になった。

参考資料 「大井城跡」 佐久市教育委員会